

(有)丹後ジャージー牧場 代表取締役

平林 衛さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「父が取り入れた褐色のジャージー牛がかわいく、牛乳もおいしい。この素晴らしさを多くの人に伝えたい」。京丹後市久美浜町でジャージー牛乳の生産・加工・販売に取り組む「(有)丹後ジャージー牧場」代表取締役の平林衛さん(68)。ジャージー牛の魅力を広めようと、絞りたて牛乳を使った加工品作りや、ふれあい牧場も行う。平林さんの父が終戦間もなく、1頭のホルスタイン種を飼ったのが酪農業の始まり。徐々に規模を拡大し「平林乳業(株)」を設立、平林さんも父と一

牛の魅力をもっと多くの人に

緒に小・中学校の給食用の牛乳販売を行ってきた。そんな中、父が旅行先でジャージー牛乳のおいしさと出会い、これを聞いた平林さんが1985年に府内でいち早くジャージー牛の飼育に切り替えた。「乳量はホルス



加工施設「ミルク工房そら」を背景に経営を頑張る平林さん

タイン種より少ないが、乳脂肪分が高くおいしい。これを加工・販売するために法人化した」と経緯を話す。敷地内に「ミルク工房そら」を設置、役員でもある妻の文子さん(66)や息子の学さん

(32)と、従業員が搾りたてのジャージー牛乳でソフトクリームやチーズプリンを販売する。ピザやバター作りの体験、ふれあい牧場も家族連れが多く訪れて人気だ。ジャージー牛の魅力を見て・触れて・食べて実感してもらっている。

平林さんは「行政やJA京都の指導、地域の皆さんの支えで、ジャージー牛の魅力を広げられた。高齢化で休耕農地が増えていくが、自給飼料で農地を守り地域貢献に取り組む計画を進める。息子が跡継ぎになり、ミルク工房でいろいろな加工品の販売を展開したい」と話す。

.....

■法人所在地 京丹後市久美浜町神崎4-1-1、(電)0772(83)1617。

■法人概要 2000年8月設立。役員2人。従業員16人。牧場面積1・2畝。ジャージー牛30頭。加工施設「ミルク工房そら」客席40。休業日は毎週木曜日と年末年始。